



在マレーシア日本国大使館付属ジョホール日本人学校

学校便り Respect



令和4年4月13日

No. 1

令和4(2022)年度 入学式 校長あいさつ

小学部1年生6名、中学部1年生5名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学を、在校生、教職員一同、心より歓迎いたします。

小学部1年の皆さんは、幼稚園や保育園から、学校と呼ばれるところへ通学することになります。今までに比べ、お勉強の時間が長くなったり、宿題が増えたりするかもしれません。頑張りましょう。中学部1年の皆さん、本校小学部や他の小学校を卒業して1ヶ月近くが経ちました。今日の皆さんは、1回りたくましく見えます。皆さんは中学部では下級生ですが、日本人学校では、小学部の良き手本となる存在でもあります。学校全体のリーダーとしての活躍を期待しています。



さて、本日入学した皆さんは、ジョホール日本人学校にとって第26回目の新入生となります。つまり、学校ができて26年目ということになります。このお話は、毎年、入学式で新入生の皆さんに話すのですが、この学校ができる前、ジョホールに住む日本の子どもたちは、どのように勉強していたのでしょうか？現地の学校に通う人もいましたが、日本語で授業を受けたい人たちは、毎日、国境を越えておとなりの国、シンガポールへ、バスで片道2時間、往復4時間もかけて通学していました。1996年、この点を何とか改善しようと、当時のジョホール日本人会の人

たちが相談し、様々な困難を乗り越えて、この学校を0から作り上げてくれたのです。そのことがあって、今皆さんがこの場所で、入学式を迎えることができているのです。忘れていけないことは、この学校を作り上げた時の皆さんの心の中には、その時ジョホールにいた子どもたちのために、日本語で勉強できる学校を作ってあげたいという気持ちだけでなく、そのあとに続く日本の子どもたちのためにも学校を残したいという強い思いがあったということです。この、日本人学校を作った方々や、代々の先輩方の思いをバトンとして受け継ぎ、次の人たちに受け渡す使命が皆さんにはあります。このバトンとは、一生懸命、勉強や様々な活動に取り組み、立派な学校を作ることです。

中学部1年の皆さんは、つい先日小学部の卒業式を終えたばかりです。そこに新しいメンバーが2名加わり、5名での中学校生活スタートです。小学校を終えたら次は、中学校に進むのは当たり前と考える人が多いと思います。確かに日本では、ほぼ100%の人たちが、小学校から中学校へ進学しています。ところが、これは世界の常識ではありません。小学校から中学校への進学率が最も低いのは、中央アフリカ共和国という国で13.9%です、世界平均は75.14%、つまり4人に1人は、中学校に進学していないのです。このような教育の格差から生まれる学力差は、その人が選択できる職業に大きな差となって現れ、貧富の差を生む大きな原因となっています。貧しい家庭に生まれた子は、早く収入を得るため教育の機会を奪われ、それによって貧しさから抜け出せないという負の連鎖が繰り返すことになるのです。SDGsでは、この負の連鎖を断ち切るために、4番「質の高い教育をみんなに」を掲げているのはそのためです。皆さんは、教育の機会を与えられています。しかし、世界には皆さんと同じ

年齢の人たちが、この瞬間、学校に行けず、働いたり難民として生活をしているのです。機会を与えられた人は、その機会を生かすだけでなく、機会を与えられなかった人のことも考え、行動する。これが今求められている生き方です。自分自身から、そのことを考え、発信し、具体的な行動に移せる中学生になっていってください。

小学部1年の皆さん、日本の多くの小学生が学校で使うカバンを何というか知っていますか？それは『ランドセル』といいます。さて、この『ランドセル』ですが、もともとはオランダ語で背負って使うカバンを意味する“ランセル”がもとになった呼び名だそうです。この『ランドセル』を最初に通学カバンとして使ったのは、日本の学習院という学校です。記録では明治18年にランドセルを使い始めたようです。今から、140年以上も前のことです。では、どうして学習院ではこの『ランドセル』を使い始めたのでしょうか。そこにはある願いが込められていたのです。もともと学習院という学校に通う子供たちは、歩きではなく馬車や人力車で通学していました。そのために、体力が低い子供が多く、それを何とかしようと、自分で歩いて学校に通うようにしました。歩いて通学するためには、片方の肩にかけるカバンでは歩きづらいので、背負えるタイプの『ランドセル』が通学用のカバンとして採用され、



それが全国に広がっていったのです。みなさんも、車やバスで登校します。毎日歩いて通学する人に比べると、体力がつきにくいと思います。ランドセルを見たら、皆さんが丈夫で元気な身体に育ってほしいという願いがこもっていることを思い出し、歩いて通学は難しいかもしれませんが、このジョホール日本人学校には、大きな芝生の運動場や、この体育館があります。体育の時間だけでなく、休み時間なども利用して、元気な身体づくりに励んでください。丈夫な身体は、一生の宝物となります。

これから先、世界は、新型コロナウイルスの影響から立ち直る時期を迎えます。単に元の世界に戻るのではなく、今回の経験を通して、より良い世界を作らなければなりません。これが、人類の進歩です。皆さんの手で、新しい歴史を作り上げていってください。そのために、自分がやらなければならないことに一生懸命取り組み、『自分も周りもより良くできる』人になっていきましょう。

保護者の皆様、お子様方は、これから先、心も身体も大きく変化する年頃をむかえます。そのような中、小学校6年間、中学校生活3年間、様々なことを経験し、大きく成長していきます。日々の学校生活が充実し、成長した姿で学校生活を全うできますよう、我々とともに手を携え、歩んでいただければ幸いです。

小学部、中学部の上級生の皆さんも後輩を大切に、仲間としてより良い学校づくりを進めていってください。

以上、皆さんへの大いなる期待を込めて、学校長からの、入学のお祝いの言葉といたします。

令和4年（2022年）4月13日

在マレーシア日本国大使館附属ジョホール日本人学校 校長 川口 浩

◎ 保護者の皆様へ

始業式、入学式を終え令和4年度の教育活動が本格的にスタートいたします。先日の「令和4年度の教育活動のスタートにあたって」でもお知らせしました、ジョホールへの到着が遅れております中川教諭ですが、18日（月）より出勤できる状況となりましたのでお知らせいたします。まだまだ制約が多い中でのスタートではありますが、3年ぶりに4月に全教員がそろって対面で授業を実施できることを大変にうれしく思います。引き続きよろしくお願い致します。